

## Ⅱ 調査結果の概要

### 発 育 状 態

#### 1 身長・体重・座高の平均値

平成26年度及び平成25年度の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における幼児、児童及び生徒の身長・体重・座高の平均値を年齢別にみると、表1のとおりである。

表1 年齢別、身長・体重・座高の平均値

区 分		身 長 (cm)				体 重 (kg)				座 高 (cm)			
		男		女		男		女		男		女	
		H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25	H26	H25
幼 稚 園	5歳	110.2	110.2	109.6	109.5	18.7	18.8	18.6	18.7	61.9	61.9	61.4	61.5
小 学 校	6歳	116.5	116.7	115.6	115.1	21.5	21.6	21.0	20.8	65.0	64.9	64.5	64.2
	7	122.3	122.2	121.1	121.5	24.0	24.0	23.4	23.7	67.5	67.7	67.0	67.4
	8	127.6	128.0	127.4	126.8	26.8	27.1	26.7	26.3	70.0	70.3	70.1	69.8
	9	133.6	133.4	133.5	133.2	30.5	30.0	30.4	29.7	72.7	72.6	72.9	72.7
	10	138.3	138.4	140.6	139.9	33.1	34.2	34.6	34.3	74.6	74.7	76.1	75.7
	11	144.9	144.3	146.5	147.0	38.6	37.9	39.2	38.9	77.6	77.2	79.3	79.3
中 学 校	12歳	152.3	151.7	151.8	151.6	44.2	43.6	44.7	44.3	81.3	80.8	82.2	82.0
	13	159.3	159.2	154.4	154.6	48.7	48.9	47.4	48.0	84.7	85.0	83.7	83.9
	14	164.8	164.8	156.1	156.2	53.9	53.6	50.8	50.3	87.9	88.0	84.9	85.0
高 等 学 校	15歳	167.7	168.2	156.4	156.9	58.4	59.3	51.2	52.7	90.0	90.2	85.0	85.5
	16	169.6	168.8	157.8	157.5	61.3	60.2	53.9	53.5	91.3	90.9	85.8	85.8
	17	170.1	170.5	157.5	157.1	62.5	63.9	52.5	52.5	91.7	92.0	85.4	85.5

注) 1 下線の部分は調査実施以来最高を示す。以下の各表において同じ。

2 年齢は、平成26年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

### (1) 身長

男子の身長は、5歳で110.2cm、11歳で144.9cm、14歳で164.8cm、17歳で170.1cmとなっており、7歳、9歳、11～13歳、16歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は11歳と12歳の間（7.4cm）が最も大きく、16歳と17歳の間（0.5cm）が最も小さい。

女子の身長は、5歳で109.6cm、11歳で146.5cm、14歳で156.1cm、17歳で157.5cmとなっており、5～6歳、8～10歳、12歳、16～17歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は9歳と10歳の間（7.1cm）が最も大きく、16歳と17歳の間（-0.3cm）が最も小さい。

10歳から11歳で女子の身長は、男子の身長を上回っている。

### (2) 体重

男子の体重は、5歳で18.7kg、11歳で38.6kg、14歳で53.9kg、17歳で62.5kgとなっており、9歳、11歳～12歳、14歳、16歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は11歳と12歳の間（5.6kg）が最も大きく、16歳と17歳の間（1.2kg）が最も小さい。

女子の体重は、5歳で18.6kg、11歳で39.2kg、14歳で50.8kg、17歳で52.5kgとなっており、6歳、8歳～12歳、14歳、16歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は11歳と12歳の間（5.5kg）が最も大きく、14歳と15歳の間（0.4kg）が最も小さい。

10歳から12歳の間で女子の体重は、男子の体重を上回っている。

### (3) 座高

男子の座高は、5歳で61.9cm、11歳で77.6cm、14歳で87.9cm、17歳で91.7cmとなっており、6歳、9歳、11～12歳、16歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の座高差は11歳と12歳の間（3.7cm）が最も大きく、16歳と17歳（0.4cm）が最も小さい。

女子の座高は、5歳で61.4cm、11歳で79.3cm、14歳で84.9cm、17歳で85.4cmとなっており、6歳、8歳～10歳、12歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の座高差は9歳と10歳、10歳と11歳の間（3.2cm）が最も大きく、14歳と15歳の間（0.1cm）が最も小さい。

8歳から12歳の間で女子の座高は、男子の座高を上回っている。

## 2 身長・体重・座高の推移

### (1) 身長の推移

- ① 身長の推移をみると、表2のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。
- ② 親の世代である約30年前(昭和59年)の予定と比較すると、男子の身長は、6歳で0.5cm、11歳で2.1cm、14歳で1.9cm、17歳で0.6cm高くなっている。  
女子の身長は、6歳で0.4cm、11歳で1.3cm、14歳、17歳で0.1cm、30年前より高くなっている。
- ③ 下表の年齢区分で全国と比較すると、女子の6歳で全国平均を上回っている。

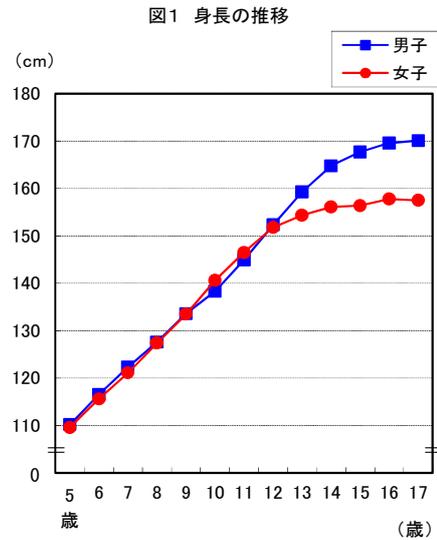
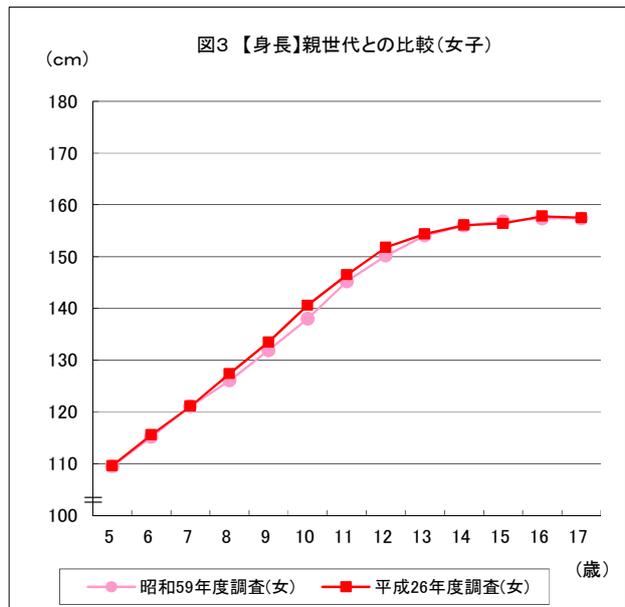
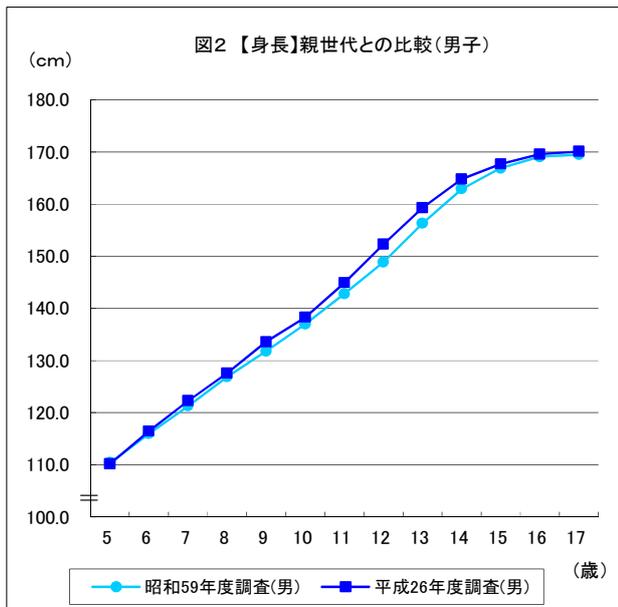


表2 身長の推移

(単位: cm)

区分	佐賀県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和59年	116.0	142.8	162.9	169.5	115.2	145.2	156.0	157.4
平成6	116.4	144.5	163.9	169.8	115.8	146.6	156.3	157.3
16	116.7	144.9	164.8	170.1	115.8	146.4	156.4	157.3
21	116.1	144.4	164.5	169.8	115.4	146.8	156.2	157.3
22	116.3	145.0	164.8	170.6	115.9	146.8	156.4	157.2
23	116.2	144.6	164.7	170.7	115.6	147.3	156.2	158.0
24	116.3	144.6	164.6	170.3	115.6	146.7	156.4	157.6
25	116.7	144.3	164.8	170.5	115.1	147.0	156.2	157.1
26	<b>116.5</b>	<b>144.9</b>	<b>164.8</b>	<b>170.1</b>	<b>115.6</b>	<b>146.5</b>	<b>156.1</b>	<b>157.5</b>
区分	全国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和59年	116.3	143.2	163.6	170.2	115.6	145.4	156.2	157.6
平成6	116.8	144.9	165.1	170.9	116.1	146.7	156.6	158.1
16	116.8	145.1	165.3	170.8	115.8	146.9	156.7	157.9
21	116.7	145.1	165.2	170.8	115.8	146.9	156.7	157.9
22	116.7	145.0	165.1	170.7	115.8	146.8	156.5	158.0
23	116.6	145.0	165.1	170.7	115.6	146.7	156.6	158.0
24	116.5	145.0	165.1	170.7	115.6	146.7	156.5	158.0
25	116.6	145.0	165.0	170.7	115.6	146.8	156.5	158.0
26	<b>116.5</b>	<b>145.1</b>	<b>165.1</b>	<b>170.7</b>	<b>115.5</b>	<b>146.8</b>	<b>156.4</b>	<b>157.9</b>



#### ④年間発育量

17歳（平成8年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では11歳時、女子では9歳時に最大の発育量を示している。

表3 【身長】平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: cm)

区分		男子		女子	
		平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (親の世代の17歳)	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量		59.7	—	47.6	—
幼稚園	5歳時	6.0	5.3	5.8	5.4
	6歳時	6.0	5.3	6.0	5.9
小学校	7	5.3	5.6	5.5	5.5
	8	5.8	5.2	6.0	5.7
	9	5.4	5.4	7.0	6.7
	10	6.2	5.5	6.6	7.0
	11	6.9	6.8	5.3	5.8
中学校	12歳時	6.7	8.0	2.3	3.6
	13	6.0	6.3	1.8	2.1
	14	3.6	3.3	0.9	0.5
高等学校	15歳時	0.5	2.7	0.4	0.7
	16	1.3	1.1	0.0	0.4

\*年間発育量とは、例えば、平成8年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成15年度調査6歳の者の体位から平成14年度調査5歳の者の体位を引いたものである。以下の表において同じ。

図4 【身長】平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較(男子)

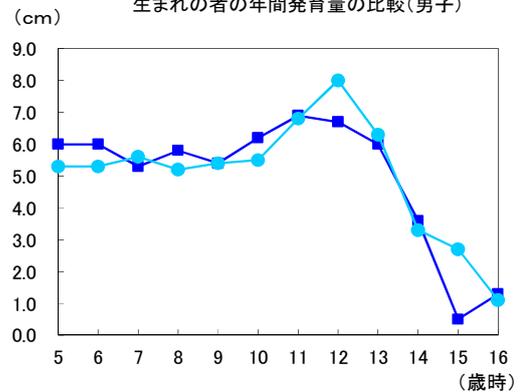
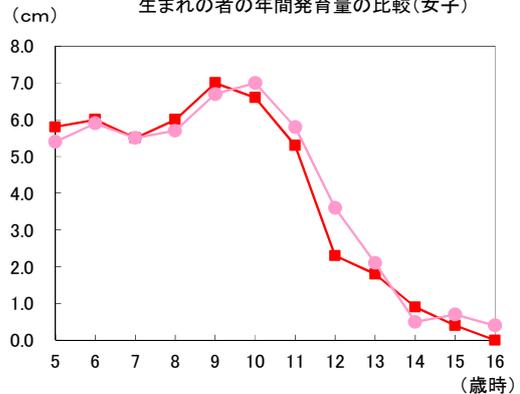


図5 【身長】平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較(女子)



(2) 体重の推移

① 体重の推移をみると、表4のとおり男女とも、ここ数年はほぼ横ばい傾向を示している。

② 約30年前（昭和59年度）と比較すると、男子の体重は、6歳で0.8kg、11歳で3.3kg、14歳で2.5kg、17歳で2.5kg重くなっている。

女子の体重は、6歳で0.6kg、11歳で2.0kg、14歳で1.7kg30年前より重くなっている。

③ 下表の年齢区分で全国と比較すると、男子では6歳と11歳、女子では6歳、11歳、14歳で全国平均を上回っている。

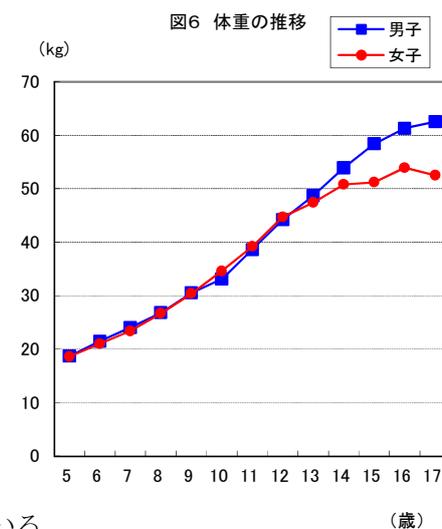
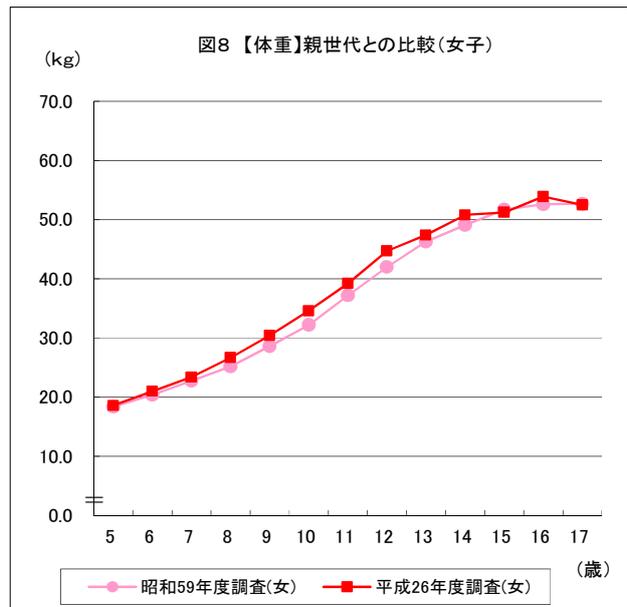
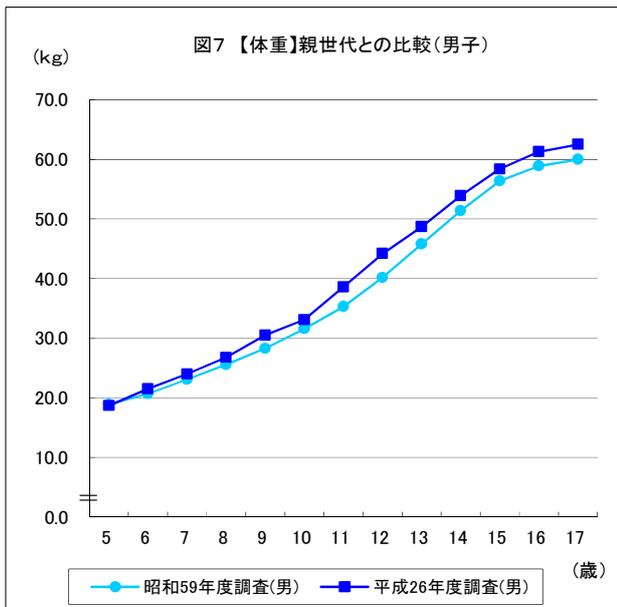


表4 体重の推移

(単位：kg)

区分	佐 賀 県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和59年	20.7	35.3	51.4	60.0	20.4	37.2	49.1	52.7
平成6	21.3	38.0	53.4	61.5	20.9	39.0	50.1	53.4
16	21.5	38.8	54.6	62.3	21.0	39.0	50.6	53.7
21	21.2	37.7	54.0	61.5	21.0	39.0	50.6	54.5
22	21.4	38.2	54.4	63.9	21.0	39.4	50.5	52.8
23	21.3	37.5	54.0	63.8	20.9	39.5	49.8	53.8
24	21.2	37.3	54.2	62.8	21.1	39.3	49.6	53.3
25	21.6	37.9	53.6	63.9	20.8	38.9	50.3	52.5
26	<b>21.5</b>	<b>38.6</b>	<b>53.9</b>	<b>62.5</b>	<b>21.0</b>	<b>39.2</b>	<b>50.8</b>	<b>52.5</b>
区分	全 国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和59年	21.1	36.4	52.8	61.5	20.7	37.7	49.7	52.7
平成6	21.6	38.4	54.6	62.9	21.2	39.4	50.5	53.1
16	21.6	39.0	55.2	63.5	21.1	39.6	50.7	53.5
21	21.5	38.4	54.3	63.1	21.0	39.0	50.2	52.9
22	21.4	38.4	54.4	63.1	21.0	39.0	50.0	52.9
23	21.3	38.0	54.2	63.1	20.8	38.8	49.9	52.8
24	21.3	38.2	54.2	62.9	20.9	38.9	49.9	52.9
25	21.3	38.3	54.0	62.8	20.9	39.0	49.9	52.9
26	<b>21.3</b>	<b>38.4</b>	<b>53.9</b>	<b>62.6</b>	<b>20.8</b>	<b>39.0</b>	<b>50.0</b>	<b>52.9</b>



④年間発育量

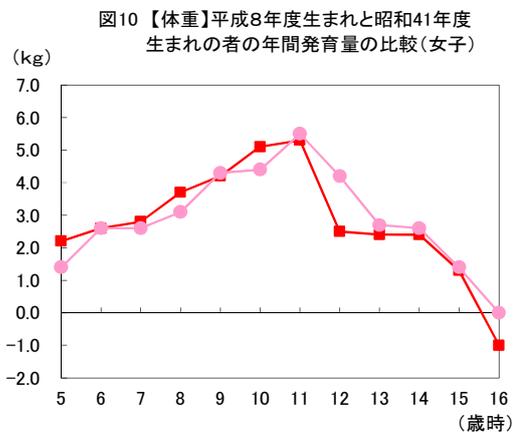
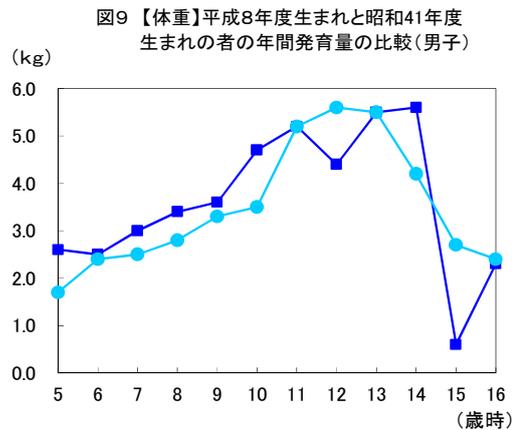
17歳（平成8年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では14歳時、女子では11歳時に最大の発育量を示している。

表5 【体重】平成8年度生まれと昭和41年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: kg)

区分	男子		女子		
	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (親の世代の17歳)	平成8年度生まれ (平成26年度17歳)	昭和41年度生まれ (親の世代の17歳)	
総発育量	43.4	—	33.5	—	
幼稚園	5歳時	2.6	1.7	2.2	1.4
小学校	6歳時	2.5	2.4	2.6	2.6
	7	3.0	2.5	2.8	2.6
	8	3.4	2.8	3.7	3.1
	9	3.6	3.3	4.2	4.3
	10	4.7	3.5	5.1	4.4
中学校	11	5.2	5.2	5.3	5.5
	12歳時	4.4	5.6	2.5	4.2
	13	5.5	5.5	2.4	2.7
高等学校	14	5.6	4.2	2.4	2.6
	15歳時	0.6	2.7	1.3	1.4
	16	2.3	2.4	-1.0	0.0

\*年間発育量とは、例えば、平成8年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成15年度調査6歳の者の体位から平成14年度調査5歳の者の体位を引いたものである。以下の表において同じ。



(3) 座高の推移

- ① 座高の推移をみると、表6のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。
- ② 約30年前（昭和59年度）と比較すると、身長伸び等に伴い、男子の座高は、6歳で0.1cm、11歳で1.1cm、14歳で1.6cm、17歳で0.9cm高くなっている。女子の座高は、11歳で1.2cm、14歳で0.6cm、17歳で0.5cm高くなっている。
- ③ 下表の年齢区分で全国と比較すると、男子、女子共に、6歳で全国平均を上回っている。

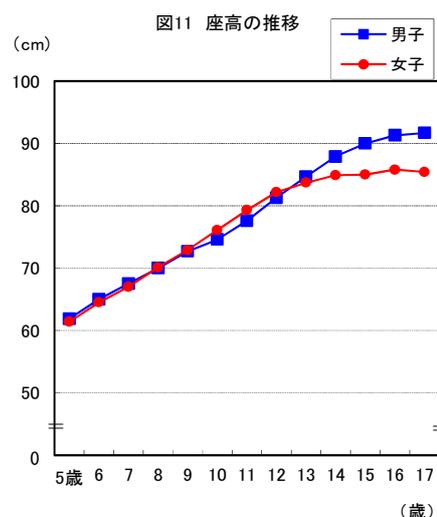


表6 座高の推移

(単位：cm)

区分	佐 賀 県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和59年	64.9	76.5	86.3	90.8	64.5	78.1	84.3	84.9
平成6	65.1	77.4	87.0	90.9	64.6	79.1	84.1	85.2
16	65.0	77.8	87.8	91.2	64.6	79.3	84.7	85.1
21	64.7	77.3	87.9	91.5	64.5	79.0	84.7	85.4
22	64.9	77.7	88.0	92.0	64.7	79.4	84.9	85.4
23	64.7	77.5	88.0	92.1	64.4	79.7	84.8	86.0
24	64.8	77.7	88.0	91.6	64.5	79.5	84.5	85.5
25	64.9	77.2	88.0	92.0	64.2	79.3	85.0	85.5
26	<b>65.0</b>	<b>77.6</b>	<b>87.9</b>	<b>91.7</b>	<b>64.5</b>	<b>79.3</b>	<b>84.9</b>	<b>85.4</b>
区分	全 国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和59年	65.2	76.7	86.8	90.8	64.8	78.4	84.4	85.1
平成6	65.2	77.6	87.6	91.2	64.8	79.3	84.7	85.3
16	65.0	77.8	88.0	91.7	64.6	79.4	84.8	85.5
21	64.9	77.6	88.1	91.8	64.5	79.3	84.8	85.7
22	64.9	77.6	88.1	91.9	64.5	79.2	84.8	85.8
23	64.9	77.6	88.1	91.9	64.4	79.2	84.9	85.8
24	64.8	77.5	88.2	91.9	64.4	79.2	84.9	85.8
25	64.8	77.6	88.1	92.0	64.4	79.3	84.9	85.9
26	<b>64.8</b>	<b>77.6</b>	<b>88.1</b>	<b>92.0</b>	<b>64.4</b>	<b>79.3</b>	<b>84.9</b>	<b>85.9</b>

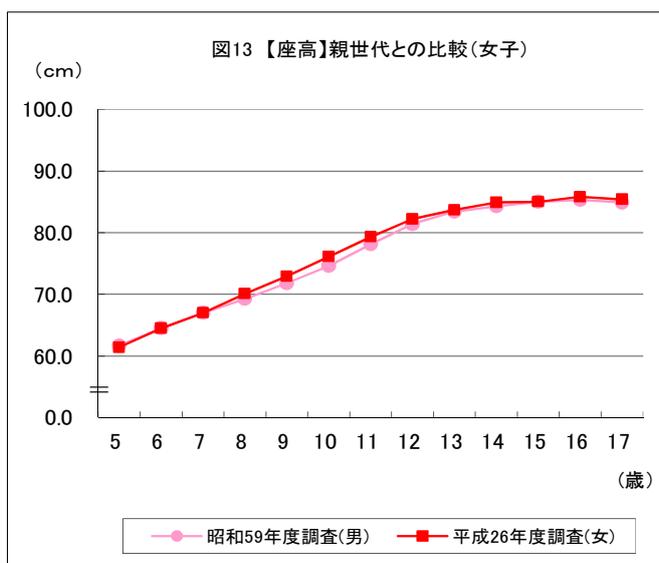
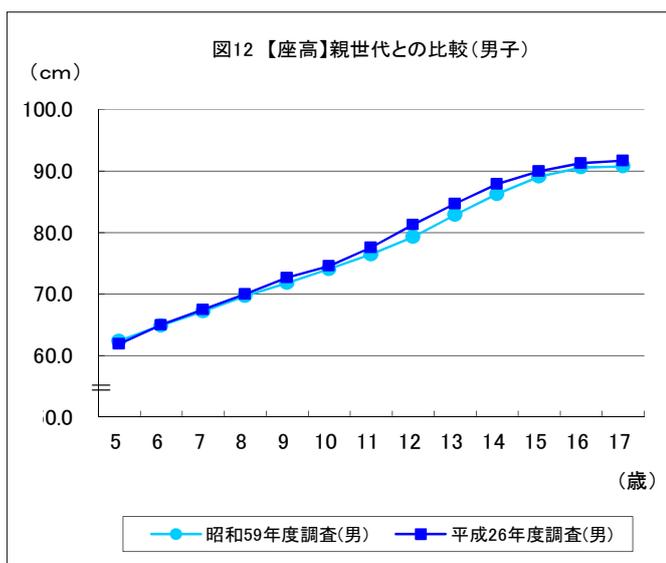


表7 親世代との年齢別 座高の比較

(単位：cm)

区分		男子			女子		
		平成26年度 A	昭和59年度 B (親の世代)	差 A-B	平成26年度 A	昭和59年度 B (親の世代)	差 A-B
幼稚園	5歳	61.9	62.4	-0.5	61.4	61.7	-0.3
	6歳	65.0	64.9	0.1	64.5	64.5	0.0
小学校	7	67.5	67.2	0.3	67.0	67.0	0.0
	8	70.0	69.7	0.3	70.1	69.3	0.8
	9	72.7	71.8	0.9	72.9	71.8	1.1
	10	74.6	74.1	0.5	76.1	74.6	1.5
	11	77.6	76.5	1.1	79.3	78.1	1.2
中学校	12歳	81.3	79.3	2.0	82.2	81.4	0.8
	13	84.7	82.9	1.8	83.7	83.4	0.3
	14	87.9	86.3	1.6	84.9	84.3	0.6
高等学校	15歳	90.0	89.1	0.9	85.0	85.0	0.0
	16	91.3	90.6	0.7	85.8	85.3	0.5
	17	91.7	90.8	0.9	85.4	84.9	0.5

# 健康状態

## 1 疾病・異常の被患率状況

疾病・異常の被患率を段階別にみると、表8のとおりである。

疾病・異常の被患率の中で高いものは、むし歯（う歯）で、小学校59.8%、高等学校55.3%、幼稚園45.9%、中学校35.1%の順となっている。

また、裸眼視力1.0未満の者は、高等学校53.4%、中学校51.1%、小学校31.9%の順となっている。

表8 疾病・異常の被患率

(単位：%)

区 分	幼 稚 園	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校
90%以上				
80%以上～90%未満				
70～80				
60～70				
50～60		むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満	裸眼視力1.0未満 むし歯（う歯）
40～50	むし歯（う歯）			
30～40		裸眼視力1.0未満	むし歯（う歯）	
20～30				
10～20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患
1～10	8～10		歯・口腔のその他の疾病・異常	
	6～8		耳疾患	歯列・咬合
	4～6		眼の疾病・異常 心電図異常	耳疾患 歯列・咬合 歯垢の状態 歯・口腔のその他の疾病・異常 心電図異常
	2～4	耳疾患 鼻・副鼻腔疾患 歯列・咬合 アトピー性皮膚炎 ぜん息 その他の皮膚疾患 ぜん息 その他の疾病・異常	歯列・咬合 歯垢の状態 アトピー性皮膚炎 ぜん息 その他の疾病・異常	眼の疾病・異常 歯肉の状態 せき柱・胸郭 蛋白質検出者
	1～2	口腔咽喉頭疾患・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 言語障害 心臓の疾病・異常	口腔咽喉頭疾患・異常 歯肉の状態 栄養状態 せき柱・胸郭 心臓の疾病・異常	栄養状態 アトピー性皮膚炎 ぜん息 その他の疾病・異常
0.1～1	0.5～1	栄養状態	その他の皮膚疾患 蛋白質検出者 寄生虫卵保有	難聴 心臓の疾病・異常
	0.1～0.5	せき柱・胸郭 寄生虫卵保有者 眼の疾病・異常	難聴 腎臓疾患 言語障害	顎関節 その他の皮膚疾患 尿糖検出者 腎臓疾患 言語障害 口腔咽喉頭疾患・異常
0.1%未満		尿糖検出者 顎関節	結核	言語障害

注) 1 「口腔・咽頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者等である。

3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常である。

## 2 主な疾病・異常の推移

疾病・異常のうち主なものについて、およそ10年間の推移をみると表9のとおりである。

表9 主な疾病・異常の推移

(単位：%)

	区分	むし歯 (う歯)	裸眼視力 1.0未満 の者	鼻・副鼻腔 疾患	耳 疾 患	心電 図異 常	ぜ ん 息	蛋 白 検 出 の 者	寄 生 虫 卵 保 有 者
幼稚園	平成16年度	66.0	10.4	4.2	3.2	…	0.9	1.0	0.3
	22	59.3	X	2.0	5.4	…	1.3	0.7	0.4
	23	54.3	X	10.3	4.9	…	3.6	1.3	0.1
	24	57.3	X	X	3.4	…	1.1	-	0.0
	25	52.4	X	2.7	5.5	…	1.1	1.4	0.2
	26	45.9	X	2.4	2.1	…	3.2	-	0.3
小学校	平成16年度	79.4	27.7	11.7	4.6	3.4	1.4	0.2	1.7
	22	64.5	31.9	14.4	6.0	3.9	3.2	0.6	1.1
	23	62.9	32.0	12.1	5.8	5.7	1.9	1.3	0.7
	24	59.9	32.7	12.5	6.0	5.0	2.0	0.5	1.0
	25	60.5	30.9	12.6	7.1	4.1	1.9	0.5	0.7
	26	59.8	31.9	13.7	6.2	4.9	3.3	0.9	0.7
中学校	平成16年度	72.4	50.5	9.7	2.5	6.6	1.4	1.6	-
	22	48.1	55.9	12.9	4.9	5.0	2.1	1.5	…
	23	46.6	49.6	11.9	4.0	5.4	1.4	1.4	…
	24	44.0	56.3	13.8	3.4	5.3	1.5	1.7	…
	25	39.8	48.8	13.2	4.3	6.5	1.5	1.6	…
	26	35.1	51.1	13.3	4.5	5.9	1.4	2.1	…
高等学校	平成16年度	85.0	61.6	8.6	1.9	5.1	1.4	0.8	-
	22	69.5	64.8	12.7	1.8	5.4	1.7	2.6	…
	23	64.5	53.5	14.2	2.3	6.1	1.2	1.7	…
	24	64.1	64.1	14.3	1.9	4.3	2.0	1.7	…
	25	62.7	X	13.3	2.4	6.0	1.3	1.8	…
	26	55.3	53.4	13.8	2.2	5.3	1.2	2.0	…

注) 1. 「-」は計数が0の場合。「0.0」は係数が0ではないが表示単位未満の場合。

「…」は調査対象とならなかった場合。

2. 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

(1) むし歯（う歯）の被患率

「むし歯（う歯）」について、「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分してみると、表10のとおりである。

むし歯の被患率（治療済みの者を含む）は、幼稚園45.9%（全国38.5%）、小学校59.8%（全国52.5%）、中学校35.1%（全国42.4%）、高等学校55.3%（全国53.1%）となっており、中学校を除いて全国平均を上回っている。

表10 むし歯（う歯）の処置完了状況等の推移

（単位：％）

区 分		年 度	H16	22	23	24	25	26	全 国 (H26)
幼稚園	計		66.0	59.3	54.3	57.3	52.4	45.9	38.5
	処置完了者		22.9	20.2	21.4	22.1	24.1	18.5	15.7
	未処置歯のある者		43.0	39.1	32.9	35.2	28.3	27.3	22.8
小学校	計		79.4	64.5	62.9	59.9	60.5	59.8	52.5
	処置完了者		32.6	26.6	26.2	26.5	26.7	27.5	26.2
	未処置歯のある者		46.8	37.8	36.7	33.4	33.8	32.3	26.3
中学校	計		72.4	48.1	46.6	44.0	39.8	35.1	42.4
	処置完了者		35.9	27.1	23.1	22.3	21.0	18.9	23.8
	未処置歯のある者		36.5	21.0	23.5	21.7	18.9	16.2	18.5
高等学校	計		85.0	69.5	64.5	64.1	62.7	55.3	53.1
	処置完了者		42.7	34.4	35.8	33.5	31.1	30.3	30.5
	未処置歯のある者		42.3	35.1	28.8	30.6	31.5	25.0	22.6

(2) 裸眼視力1.0未満の被患率

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校31.9%（全国30.2%）、中学校51.1%（全国53.0%）、高等学校53.4%（全国62.9%）となっており、小学校で全国平均を上回っている。

10年前（平成16年度）と比較すると、小学校では4.2ポイント高くなっており、裸眼視力0.3未満の者は、10年前より3.1ポイント高くなっている。

表11 裸眼視力1.0未満の者の推移

(単位：%)

区 分		年 度						全 国 (H26)
		H16	22	23	24	25	26	
幼 稚 園	計	10.4	X	X	X	X	X	26.5
	1.0未満0.7以上	9.3	X	X	X	X	X	17.6
	0.7未満0.3以上	1.1	X	X	X	X	X	8.0
	0.3未満	-	X	X	X	X	X	1.0
小 学 校	計	27.7	31.9	32.0	32.7	30.9	31.9	30.2
	1.0未満0.7以上	11.8	11.8	12.2	11.5	11.2	11.0	10.7
	0.7未満0.3以上	10.1	11.8	11.6	12.4	11.2	11.9	11.3
	0.3未満	5.9	8.4	8.2	8.7	8.5	9.0	8.1
中 学 校	計	50.5	55.9	49.6	56.3	48.8	51.1	53.0
	1.0未満0.7以上	11.0	9.6	10.8	11.1	9.3	12.1	11.3
	0.7未満0.3以上	16.4	17.8	16.6	16.6	18.6	16.3	16.8
	0.3未満	23.0	28.5	22.3	28.6	21.0	22.7	25.0
高 等 学 校	計	61.6	64.8	53.5	64.1	X	53.4	62.9
	1.0未満0.7以上	10.6	X	12.2	X	X	X	11.5
	0.7未満0.3以上	14.0	X	13.8	X	X	X	15.5
	0.3未満	37.1	X	27.4	X	X	X	35.8

注) 「-」は計数が0の場合。「0.0」は係数が0ではないが表示単位未満の場合。

「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上または受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

### 3 心電図異常

小学校、中学校及び高等学校の各1学年において、心電図検査の異常者の割合を調査した。  
各学校段階の心電図異常の割合は、表12のとおりである。

表12 心電図異常の割合

(単位：%)

区 分	佐 賀					全 国				
	H22	23	24	25	26	H22	23	24	25	26
小 学 校 1 年	3.9	5.7	5.0	4.1	4.9	2.5	2.5	2.3	2.6	2.3
中 学 校 1 年	5.0	5.4	5.3	6.5	5.9	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3
高等学校 1 年	5.4	6.1	4.3	6.0	5.3	3.1	3.1	3.0	3.2	3.3